

令和元年度 第1回学校評議員会 会議録

1 日 時 令和元年6月10日(月) 13:30~15:00

2 場 所 本校 ATルーム

3 出席者

(学校評議員) 井上 勝巳 評議員(前 本校PTA顧問)  
 岡山 侑 評議員(川前地区自治会 副会長)  
 小野寺 浩 評議員(本校部活動後援会 監事、八幡平市体育協会 事務局長)  
 久慈 智春 評議員(国際ソロプチミスト盛岡)  
 榊原 世士 評議員(滝沢第二中学校 校長)  
 畑中 新吉 評議員(JA新しいわて 代表理事専務)  
 福島 啓一 評議員(前 岩手県南広域振興局農林振興センター)

(学校側) 校長: 神山 秀市 副校長: 三戸 望、菅野 修一 事務長: 浅沼 卓雄  
 総務課長: 谷地 禎彦 教務課長: 小山 智弘 生徒指導課長代理: 三輪 和幸  
 進路指導課長: 藤本 正彦 舎監長代理: 今野 直美 保健厚生課長: 宇津宮誠  
 図書課長: 亀井 敦子 農場長: 菊池 文明

4 会議録

進行: 三戸副校長

(1) 校長挨拶: 神山校長

(2) 説明

ア 学校経営計画について(神山校長)

イ 資料説明(三戸副校長)

ウ 各課の重点目標について(各課長)

(総務課長→教務課長→生徒指導課長→進路指導課長→舎監長→保健厚生課長  
 図書課長→農場長)

(3) 意見交換

委員名	質問・意見	回答等
A委員	中学生を対象とした体験入学の内容は素晴らしい。加えて小学生、幼稚園児と交流する機会を設けることは考えていないのか?	果樹園では小学生が農業体験をしている。また、小学校の要請に応じる格好で「出前授業」も行っている。
A委員	成績不振者とは?	いわゆる赤点(通知表の評点40点未満)の者を指す。テストの都度、生徒への指導を行い、進級・卒業に関わる場面では保護者を交えて改善を促す。
B委員	昨年度の卒業生のうち就農した生徒の数は?	直接就農した者はいない。本校専攻科に進学した者で、実家の営農に携わりながら週2回学校に通っている者がいる。
B委員	就職した生徒の離職状況は?	就職1年目で離職する割合は約14%。3年で約4割がやめている。県内に比べ、県外就職者のほうが離職率は高い。

B委員	他の学校に比べ離職率は高いのか低いのか？	他の学校に比べ、若干低い数値となっている。なお、一昨年度まで全県での離職状況の追跡調査を行ってきたところであるが、行わないこととなった。担任の把握状況からの数値である。
C委員	平成 31 年度の入学者数は少なかった。次年度に向けた対策は？	志願者の増加を狙い、入学説明会を2回開催する。本年度も早めに初回の中学校訪問を済ませた。また、中学校の要請に応じて教員が説明に伺っているが、中学生に受け入れられやすい説明形態を工夫したい。本年度入試で、盛岡四高の募集定員が減となったが、本校への影響は僅少であった。翌年度、盛岡管内で盛岡三高、盛岡北高、盛岡工業で募集定員が減となる。本校への影響は予測できない。推薦割合の見直しも議論される見込み。教育内容の充実を図って参りたい
C委員	食品を取り扱ううえで、HACCP（ハサップ）の認証への取組は？	合理的な衛生管理方法である HACCP（ハサップ）の民間事業者の認証取得については、進められているところである。学校として認証所得のところまで動いていない。
C委員	発達障がい等、障がいの配慮を要する生徒の数は？	資料を持ち合わせていないので、具体的な人数はお答えできない。中学からの情報提供により、服薬の状況を把握するケースと、高校に入学した後に診断を受け落ち着いたケースがある。近々配慮を要する生徒に関する調査を行う。我々が思っている以上に障がいとしての配慮が必要な生徒の割合が高くなるのではないかと予測している。療育手帳の交付は、保護者の認めたくない心情もあり難しい事例もある。保護者の意識によって、医療的な対応が難しくなるケースも出てくる。
D委員	重点目標に掲げている「生きる力」とは？	「自立していくこと」を前提に、生徒が世の中に出て働くうえで苦勞することが見込まれる事項については、卒業までの間に指導する。「あいさつ」をはじめ

		「対人関係を構築できるような訓練」、 「働き方」に至るまで、社会人として備えておきたい学力・能力・姿勢を身につけさせたい。
E委員	卒業生77名が新入生としてお世話になっている。様々な機会に情報交換ができればと考えている。	
F委員	県教委から高校再編のアンケートが来た。学科の名称も変わった。今般の高校再編が本校に及ぼす影響は？	再編は10年計画で進められており、後半の5年がスタートしたところ。関係者から意見をもらっている最中で、本校の定数減についての話題は出ていないと認識している。盛岡地区の定数の変化は勿論、他地区の動向についても注目していきたい。
G委員	担い手育成の観点から、林業技術センターの林業女子。スマート農業など良い取組である。兼業農家でも、実際には零細規模の農家が多い。非農家の生徒を含め就農を推進するならば、農業法人等への就職を期待したい。	非農家の生徒も農業に入りやすいよう、農業法人の見学などを行い、将来を考えさせていきたい。
B委員	ゲノム編集については取り組んでいるか？	高校段階では、実験設備はなく、情報提供にとどめている。
B委員	全国には、栽培した野菜等をレストランに提供している高校があると聞くが、そのような取組は？	盛岡スコーレ高校ではレストランを運営している。そこにリンゴやジュースを一時的に提供したことはある。商売用の栽培ではないことから、数に限りがある。プロジェクトとして、昆布豚に関してレストランと連携して取り組んでいる事例もある。盛商マートへの提供による販売はあるが、レストラン等への直接販売はない。
A委員	地元自治会として、お願いがある。10月第1日曜日に町内会の避難訓練で炊き出し訓練を行う。生徒にボランティアとして参加してもらうことはできないか。	ボランティアのクラブもある。寮に残っている生徒もいる。対応は可能と思われる。追って詳細について情報提供願いたい。